

2024年 新年のごあいさつ

一般社団法人 群馬県介護支援専門員協会 会長 大澤 誠

皆さま、あけましておめでとうございます。
2024年の年頭にあたり、ご挨拶申し上げます。



2024年度は「医療・介護・障害福祉」の3領域の報酬が同時に改定されます。この「トリプル改定」にあたり喫緊の課題となっているのが2025年問題です。2025年度には“団塊の世代”がすべて75歳以上の後期高齢者となり、医療・介護のニーズが急速に増大するため、今回の改定はとりわけ重要視されています。

そして、2024年度は介護支援専門員の法定研修が改正となります。今回の新たな改正では、下記の内容が盛り込まれます。

- ・ 終末期ケアを含めた生活の継続を支える基本的なマネジメント
- ・ 疾患別マネジメントの理解として、心疾患、誤嚥性肺炎などの科目

介護支援専門員は、より医療的な知識を持つ必要に迫られるということになりそうですが、その目指すものは、要介護者の「在宅限界点を高める」ことにあります。たとえ重度化しても、すぐに入所させることなく、在宅ケアや在宅看取りを可能な限り提供していくことを目指し、その要となる居宅介護支援専門員には医療・介護連携の知識と技術の深化が求められます。また、世相を反映した「ヤングケアラー」「仕事と介護の両立」なども、新たに盛り込まれるといわれています。しかし、法定研修を強化すれば、それで充分というわけではありません。当協会では、様々なスキルアップ研修を企画して居宅介護支援専門員の資質向上に引き続き取り組んでいく所存です。

本年は十二支でいうと「辰（たつ）」、十干では「甲（きのえ）」です。「甲」は、優勢であることを表す他、まっすぐに堂々とそそり立つ大木を表し、「辰」は十二支の中では唯一の架空の生物、龍を意味し、龍は竜巻や雷などの自然現象を起こす大自然の躍動を象徴します。この二つを組合せた「甲辰（きのえ・たつ）」は、「成功という芽が成長し、姿を整えていく」といった縁起のよさを表しています。皆さまに、そのご利益がもたらされることを祈念しております。本年もよろしく願いいたします。

日本協会 全国大会 厚生労働省基調講演 「介護保険制度の現状と今後の動向について」

講師：厚生労働省 認知症施策・地域介護推進課長 和田 幸典 氏

和田氏の講演は時に笑いあり、熱を感じるお話で、時の経つのが速く感じました。

10月23日の社会保障審議会を控え具体的な方向性について語ることが難しいなかで、ケアマネ愛を語り、日本独自の仕組みである介護保険制度のなか20年間担ってきた役割に、更なる進化・深化を期待する旨のお話をされていました。

私は養護老人ホーム（以下、養護）に勤務しています。残念ながら、ケアマネジャーの皆さんに措置施設である養護が社会資源の一つとして認識されることは殆どありません。更に、自治体からの措置入所が滞りがちななか、県内全養護に空床が相当数あることも知られていません。そんな養護に勤務する私が和田氏の講演で着目した点を以下に記します。



先ず介護報酬がどの程度のプラス改定となるのか。各業種の賃上げが伝えられるなか、介護分野との賃金格差は拡大、他業種への人材流出が問題となっています。テクノロジー活用による生産性向上・労働負担軽減は確かに重要ですが、賃金の引き上げはやはり必須の課題です。

次に旧来の地域の、共同体としての支えあう力が衰退している状況下では、意識的計画的に地域を「創りなおしていく、こと、これまでの地域概念を超えた「共生社会の実現」が必要不可欠の課題であることが改めて示されました。

更に「2040年までの人口等に関する見通し」です。現在全世帯類型の1/3が単身世帯、2030年には独居高齢者が796万、2040年には896万世帯に。

現在、厚生省・国交省・法務省3省合同の「住宅確保要配慮者に対する居住支援機能等のあり方に関する検討会」（以下、検討会）が4回開催されています。言うまでもなく住まいは生活の基盤です。しかし家主にとって、家族との繋がりが希薄な高齢者の入居は事故物件に繋がるおそれが高く、敬遠・退居を求める対象となっています。

家主が安心して住まいを提供できる独居高齢者見守り支援は、今ある仕組みを活かしつつ拡充・充実を図る方向へと進んで行くのではないのでしょうか。「今後ケアマネジャーの仕事量は増える」との氏の言葉には、「居住ケアマネジメントの概念確立」（第2回検討会資料）という言葉と繋がっているように思えます。

和田氏の「よりよい高齢社会を創っていく取り組みを、皆さんと一緒に作りあげていきたい」という言葉に、多くの参加ケアマネジャーが、共感と決意を抱いたのではないのでしょうか。

養護に勤務する私にとっては、措置施設の養護が従来のかたちを超えてどのような役割を果たせるのか、大きな課題を示されていると感じました。

養護老人ホーム希望館 施設長 小出 良一

日本協会 全国大会 基調講演 「ケアマネジメントの質とは？～支えあうことの『価値』を問い直そう～」

講師：日本ケアマネジメント学会理事長 白澤 政和 氏

介護保険という仕組みとケアマネジメント仕組みは違うが、それを挿し木して一体化する努力を続けてきた。

そのなかでケアマネジャーの役割は、利用者の生活上のニーズを明らかにし、それと社会資源をつなげることで生活問題の解決を図ってきた。これにより、多くの生活問題は解決してきた。

しかしながら、それだけでは利用者や家族の地域での質の高い生活を作り出し、維持していくことができないことが分かってきた。

そこで明らかになったことは、

- 1 本人だけでなく家族員全体を支援する必要があること
⇒8050問題、ダブルケア、ヤングケアラー、介護者支援
- 2 本人の生活問題を解決することの支援に加えて、本人がしたいことやできること（本人の目標）を支援することが必要
⇒「人が人を支え、支えられる価値」ということである。

これは、「支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる仕組みを構築する、という地域共生社会の定義と共通する。

ストレングスモデル・ケアマネジメントとして利用者のマイナス面だけでなく、プラス面をもアセスメントし、ケアプランに反映させるが、このプラス面を問題解決（問題解決アプローチ）のためだけに使うのではなく、利用者の生活を高める（目標支援アプローチ）に活用していくことを入浴に関するニーズの事例を使って具体的に解説された。

質の高いケアマネジメントとは、利用者や家族が社会資源を利用することで生活ができていくことだけでは質は高くない。利用者も役割を持ち好きなことやできることがやれている状況にあることが、質の高い生活（QOL）である。

そのためには、利用者のストレングスを活用することが必要であり、活用するためには、利用者や家族が可能性を豊富に持っている人として捉えて支援（尊厳の保持）していくことが大切になる。

久しぶりに白澤先生の講演を聞いた。

ブラッシュアップとともにケアマネジャーが地域共生社会の中で大切にしていけるべき視点を確認できた。



特別養護老人ホーム永光荘施設長 村上 忠明

日本協会 全国大会 分科会 第3分科会 アドバンス・ライフ・プランニング

令和5年10月21日22日の両日に日本介護支援専門員
全国大会2020+3 in とちぎが栃木県宇都宮市のライ
トキューブ宇都宮にて、コロナ明け、満を持して華やかに
また盛大に開催されました。

私は、「アドバンス・ライフ・プランニング」をテーマと
した第3分科会へ事例発表者としても参加してきました。
分科会では、ACPではなく、ALPであることの意味、
careではなくLifeである意味を問い、改めて介護支援専門員が関わるACPとして、最後まで
「そのひとらしく生きる」を支えるを実践した事例発表が、近隣県だけでなく、宮城、京都、
大阪そして福岡と全国各地の取り組みが6事例発表されました。また、当日の分科会にはNHK
の取材が入り、発表の様子や真剣に耳を傾け頷く参加者の熱いまなざしが放送されるとともに
参加された方々の「他県の方のケアマネジメントを知る大切な機会となった」や「元気なうち
から自分の意思表示をフランクに伝える事が大事だと伝えたい」などの声が放送されていました。
人生の最終章の幕が下りるその最後の一呼吸まで“その人らしく”全てを燃やし生き抜くよう
な、そんな「生きる」を支えるケアマネジャーになりたいと参加者の心に響いた分科会でした。

居宅介護支援事業所なゆた 内村 英徳



記念講演 「老いること 死ぬこと 愛すること」

講師：日本福祉大学中央福祉専門学校 専任教員 渡辺 哲雄 氏

渡辺先生がご自分の祖母、実母の介護体験を通して感じ
た想いとケアマネジャーに対する激励をユーモアたっぷりに
語られた講演でした。

人間は困ったときに心が通う、不便なときに心が通うと
いうことでした。日々の相談業務の中で心が通ったと思わ
れる体験は経験していますが、その困りごと、不便な事柄
に十分対応できていたか考えさせられました。

渡辺先生がお母様に対し「ストーリーケア」の方法で関わった話が印象的でした。認知症の
方を病院へ繋ぐことやサービスを導入しようと動きますがスムーズに進まないことは多々あり
ます。本人自らが選択して病院受診をしたいと思わせる「魔法の言葉」「選びたくなる方向へ
導くシナリオ」その手法を手に入れば鬼に金棒！です。そして、家族が亡くなったときに後
悔している家族が救われる一言をかけてあげられるセンスがあれば最強のケアマネジャーにな
れるのではないのでしょうか。

『ケアマネになる前、基礎資格の仕事に就いたとき、その仕事を志した学生時代の想いと重
ね合わせながら原点に立ち返ってこの仕事の価値を噛み締めていただければ望外の幸せです。』

渡辺先生が記念誌に載せた言葉です。40年前に基礎資格の仕事に就いた頃のことを振り返り
ました。

北毛介護福祉センター 高橋 敬子



理事会・委員会報告

(2023年9月から11月の活動報告)

理事会

会長 大澤 誠

2023年10月末日現在の正会員数は849名、昨年同期が854名、また日本協会会員数も162名から158名で、微減となっています。周りの方々に、入会のお勧めをお願いします。

スキルアップ研修・ケアプランチェックアドバイザー派遣事業は順調に進捗しています。日本協会全国大会inとちぎは10月21日、22日の両日、宇都宮にて盛大に開催されました。当県からの参加者は少なかったものの、その運営には大きな貢献をいたしました。次は第19回ケアマネジメント群馬フォーラム（新井健五大会長）が2024年2月10日に待っています。フォーラム広告収入の確保は、今後は大会実行委員会とは別のチームを理事会主体で組織して取り組んでいくこととなりました。実行委員会の負担を軽減するためです。広告収入確保に対するご協力、お声かけもよろしくお願いいたします。そして、フォーラム当日は多くの方々のご参加をお待ちしています。

今年も「介護職種のための口腔機能管理研修会」が群馬県歯科医師会との共催で開かれます。若年がん在宅療養支援に関わる研修が、今回は訪問介護事業所等のサービス事業所対象に行われます。

学術研修委員会

学術研修委員長 菅野 圭一

やはり、学術研修委員会を開催できていませんが、年間計画での毎月の研修会は予定通り開催されており、好評を得ています。特に、12月2日（土）開催予定の「ターミナルケアマネジメント-終末期をとらえよう-」は、申し込み締め切り前の段階で定員の50名を大幅に上回ってしまったため、急遽定員の変更を余儀なくされるような状況となっています。今後も皆様の御希望に添った内容の研修会を企画していきたいと思っております。

また、例年行っているケアマネフォーラムとケアプランチェックアドバイザー事業に関しても順調に準備が進んでおり、（ケアマネフォーラムに関しては広報でまた詳細が発表されると思いますが）、ケアマネフォーラムの開催は2024年2月10日（土）で完全WEBでの開催、ケアプランチェックアドバイザーは担当と日程が決まり、地域によっては既に始まっているところもあります。

総務財政委員会

総務財政委員長 坂井 崇

現在、委員会では協会活動円滑化の為に各種規定整理、各種研修企画実施の為にサポート、ケアマネジメント群馬フォーラムにおける支部との協働内容についての整理を行い会員の皆様の学びたい、参画したいというお気持ちに協会として応えることに繋がるよう取り組みを進めております。会員の皆様にご覧いただきありがとうございます。各種情報を迅速にお伝えするためのメール配信サービスにつきまして全会員の皆様にご登録はいただけておりません。広報誌を用いたご案内はございますが発行回数、紙幅にも限りあり、この記事を読みまだご登録を済まされていない方は、お手続きをお願いするとともに県協会ホームページ最新情報についてもご確認くださいませようお願い申し上げます。

広報情報委員会

広報情報委員長 松本 勝美

ケアマネ群馬132号も無事に発行することができました。様々な活動が新しい形で再開され研修会や支部活動も活発化しています。日本協会の全国大会も開催され、ケアマネ群馬フォーラムも開催予定となっています。ケアマネ群馬ではこれらの活動について、会員の皆様にも少しでも多くお伝えできるよう、編集会議にて検討しています。参加された方には、是非ともその場で感じたものを執筆して頂きたいと思っております。会員の皆様の声をケアマネ群馬に活かしていくためにも、執筆依頼があった場合にはぜひともお引き受けください。

群馬県介護支援専門員協会 スキルアップ研修に参加して

①薬剤師と話そう！在宅における連携、居宅療養管理指導

「皆さんお薬のことで困っていませんか？」～居宅療養管理指導の活用と運営基準の解釈も含め～に参加して9月29日にZoomにて参加しました。処方されたお薬を毎回貰っていても自己判断で飲んでいない、飲み忘れてしまう、いろんな医療機関から薬を貰っているなど、ケアマネジャーではよく聞く話かと思います。処方されたお薬をご自宅でどのように服用しているのか、在宅での生活状況などを薬剤師とも共有する事で、服薬調整や飲み合わせによる全身への影響などにも目を向けて相談に乗ってもらえる事を知ることができました。

薬について相談ができる薬剤師が一人でもいると良いですよとアドバイスがあり、薬剤師も生活状況などについてケアマネジャーと連携をしたいと聞いていると聞いたので、研修で教えてもらった「群馬県地域連携薬局」を検索してみました。地域ごとに検索ができ、細かな情報が掲載されており、担当している方のお薬相談の時には連絡をしてみようと思いました。

居宅介護支援事業所なゆた 石田 知里

②地域資源の見つけ方や活用方法について「地域の支えあい」

～福祉の視点から地域課題を考える～「地域福祉の考え方」地域福祉の捉え方とケアマネジメント

社会資源はどのようなものであるか再確認するために、群馬県介護支援専門員協会の松沢副会長の研修を受けました。社会資源の一般的な意味は、利用者がニーズを充足し、問題解決するために活用される各種制度・施設・機関・設備・物資・法律・情報・集団・個人の有する知識や技術の総称を指すとのことでした。研修の冒頭にてそのことを踏まえ、ケアマネが最大限に活用すべき社会資源は「人」という結論から始まりました。確かに環境も設備も法律も、人がいてからこそなりたち、大きな数が集まれば法律すら変える力を持ちえます。サービスも行う人の能力によっては、同じサービスでも結果が驚く程違うことがあります。今回の講義ではその為により多くの方と関わり交流することで、一般人である私でさえ人との繋がりでアメリカ大統領に会うことができるという具体的な事例を絡めより深く学びを得ることができました。高い専門性をもったケアマネとしてサービス有りきではなく、環境に働きかけ利用者自身の能力が引き出せる自立した計画作成ができるよう人と交流し絆をもち、その絆をもって対応できるよう自己研鑽に励みたいと思いました。

パナケア真中（株）高崎居宅介護支援事業所 鈴木 恭子

③「認知症と精神疾患」～その方一人ひとりの世界を知るケアマネジメント～を受講して

ケアマネジャーは、日々ご利用者様と関わる中で、ケアマネジメントプロセスを繰り返しながら、その方自身を理解することを意識しながら業務に当たっております。当然のことながら一人の「人」を理解することは簡単なことではありませんが、支援を行う上で重要なことと理解し、日々皆さん奮闘していると思います。

今回の研修を受講し、認知症の理解が深められただけでなく、ご利用者様と向き合い、その方の「物語」を捉えることが、ケアプラン作成だけでなく病気の治療やACPにも繋がっていくことを再認識し、改めて自身のモチベーションの向上させることができました。

今後業務を行っていく上で、ご利用者様の「物語」の理解に努め、「物語」を関係者で共有しながら、その方が最期の時を心残りなく過ごせる環境を整えることを意識し、今まで以上にご利用者様のセルフケアをエンパワーメントできるように支援していきたいと思います。

内田居宅介護支援事業所 曾我 太佳

④定例ケアマネ親睦交流会

「皆さんが日頃業務で感じる違和感・悩み・辛さ、話してみませんか・・・」これってケアマネの役割なの？～というサブタイトル通り全部ケアマネにばかり厄介事が降りかかって来るという体験談が色々と参加者の口から出てきました。

一人暮らしの利用者の住所変更や家具の移動に始まり、頻繁に救急車を呼ぶ利用者の対応で夜間連絡があり訪問や入院の付き添いをしなくてはならない。お金がかかるので有償サービスは頼めないからケアマネに頼む。行政がマイナンバーをケアマネに相談してくださいと誘導するなど、これってケアマネの役割なのという話が出てきました。

普段自分の中の抱えているどうして？という疑問も参加された参加者に話を聞いてもらい共感してもらう事で随分楽になるのだなと感じました。交流会での内容は守秘義務があるのでそれ以外にも色々話が出ましたがそういった事の共有も参加者の絆を深める要因なのかもしれません。

ケアプランかしま 木暮 俊輔

支部情報

伊勢崎支部

令和5年10月31日、伊勢崎佐波支部では行政との顔の見える関係作りという事で介護保険課、高齢政策課、地域包括支援センター、安心安全課と意見交換会を行ってきました。コロナ禍前よりケアマネジャーの会と行政とで話し合いの場を持ちたいと考えていましたがなかなかかなわず、新体制となって初めて意見交換の場を持つことができました。

ケアマネジャーの会で意見交換に持っていく議題を集め、それを事前に介護保険課の方に送り関係する部署に連絡して頂く形をとりました。議題として個別避難計画が伊勢崎市で何処まで進んでいるのか進捗状況の確認。高崎市等で進められているゴミ出し等の先進的な事例の紹介。65歳以上に限られるおむつ支給を要介護4, 5の65歳未満者にも適用されないか等上げさせて頂き検討して頂く事になりました。行政の方からも市町村給付を使っている利用者が入院になった際など高齢政策課に連絡を頂きたい事や介護施設に関する意見を求められたりしました。

普段、ケアマネジャーが疑問に思っている事も行政の方々と顔を合わせて話し合いをする事でお互いに新しい発見が出来ました。今後も定期的に意見交換の場を作り伊勢崎市とケアマネジャーの会お互いにとってより良い関係が作れ、市民が暮らしやすい街に出来ればと考えております。

ケアプランかしま 木暮 俊輔

高崎支部

高崎・安中支部主催集会。よくわかる『上手な会議のススメ』かた
～サービス担当者会議を題材に～

研修に参加し、大石尚講師の講演後意見交換を行いました。講義の内容では担当者会議のあり方、進め方では本人の意向に添った望む生活が送れるよう本人、家族、専門職が話し合える安全な場所（間違えても攻撃されない、間違える事ができる場所）として意見交換をする。またアサーティブな表現で相手に配慮しつつも、自分の意志や意見についてきちんと伝える。対等な立場で話すスキルを身に付ける必要性等を学びました。

専門用語を使うと家族はわからず、その会話から外れてしまう存在になってしまう為にケアマネジャーが専門用語に対して代わりに質問をし、情報を共有し納得性のある物にできるよう会議を進めていく事も大切だと感じました。対面での研修に他事業所の方と話をする事ができ、専門用語は使わないようにしている、時間配分に困る等の普段悩んでいる事を聞く事や話す事ができる貴重な時間となりました。大石講師の講義も毎回勉強になります。ありがとうございました。

特別養護老人ホーム 明嶺荘 宇佐美 里佳



コラム

今年度22年ぶりに介護の現場に異動した。ケアマネジャーが長く、看護師として異動にとても不安だった。現場の介護は全くの素人で、利用者の移動、移乗、送迎行先、口腔ケア、体操、リハビリなど覚えることが多く利用者の顔や動きを覚えることは二の次になってしまう4月だった。5月徐々に利用者の名前と家族の送迎時の様子を覚えることが出来、6月デイでの様子を家族へ説明する送迎が出来た。実際にサービス事業所で勤務するようになると、デイサービス職員は利用者の変化や家族の介護方法など詳しく知っていて、本人・家族との信頼関係が深いことが分かった。もう結構年配になったが、死ぬ前にもう一度ケアマネジャーとして勤務をすることがあったら、デイサービスの効果、良さをしっかり説明し計画に入れたいと思う。(基礎資格：看護師 T)

事務局からのお願い

会員の皆様には日頃より本会の運営に関しましてご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

会報誌や研修の情報等が、皆様のお手元にスムーズに届けられますよう、住所変更・勤務先変更のある方は、必ず「変更届」の提出をお願いいたします。

また、勤務先が変更になった場合、支部が変わる場合がありますので、その都度変更届の提出をお願いいたします。

変更届等様式については、群馬県介護支援専門員協会のホームページよりダウンロードができます。

必要事項をご記入頂き、FAXで送信いただくか、事務局までお問い合わせください。

また会員の皆様には、メールアドレス登録を推奨させていただいております。

現在500名近くの方が登録いただいております。

研修等の情報を逸早くお届けできますので、是非お申し込み下さい。

一社) 群馬県介護支援専門員協会 事務局

(群馬県社会福祉協議会 地域福祉課内)

TEL 027-255-6226 FAX 027-255-6173

事務担当：新井



編集 後記

あけましておめでとうございます。今年もケアマネ群馬をどうぞよろしく願い致します。

昨年3年ぶりの日本協会全国大会の開催ということでしたが、自分は初めての参加で会場が隣県栃木ということもあり現地へ出掛けてみました。会場参加では参加している実感を強く感じました。役員の皆さんのお骨折りには頭の下がる思いでいっぱいです。多くの方が参加することでねぎらうことができると思いましたので、県内で開催されるフォーラムなども是非、参加できるように心掛けながら皆さんにも呼び掛けていきたいと思ひます。(H)